映像表現などテーマに講座

名古屋学芸大

日進市の名古屋学芸大で二十八日、「映像時代の新しい言語　フォトとムービー」と題した公開講座があり、同大映像表現研究所長の西宮正明教授＝写真＝が約百人を前に講演した。

西宮教授は、映像づくりの基本は「目前の現実を自らの感性で切り取ること」と述べた。「今、学生の足を引っ張っているのは、こういう写真がはやっている、などという思いだ」と指摘。最近試みている新しい映像手法の作品も紹介した。

参加者からモノクロとカラーの違いを問われると、「色が入るとデザインという感覚になる。純粋にモノを言うときは、モノクロ。だから僕の作品はすべてモノクロ」と答えた。

講座は、同大が名古屋市教委と共催で開いた。